



# おごおり

第377号

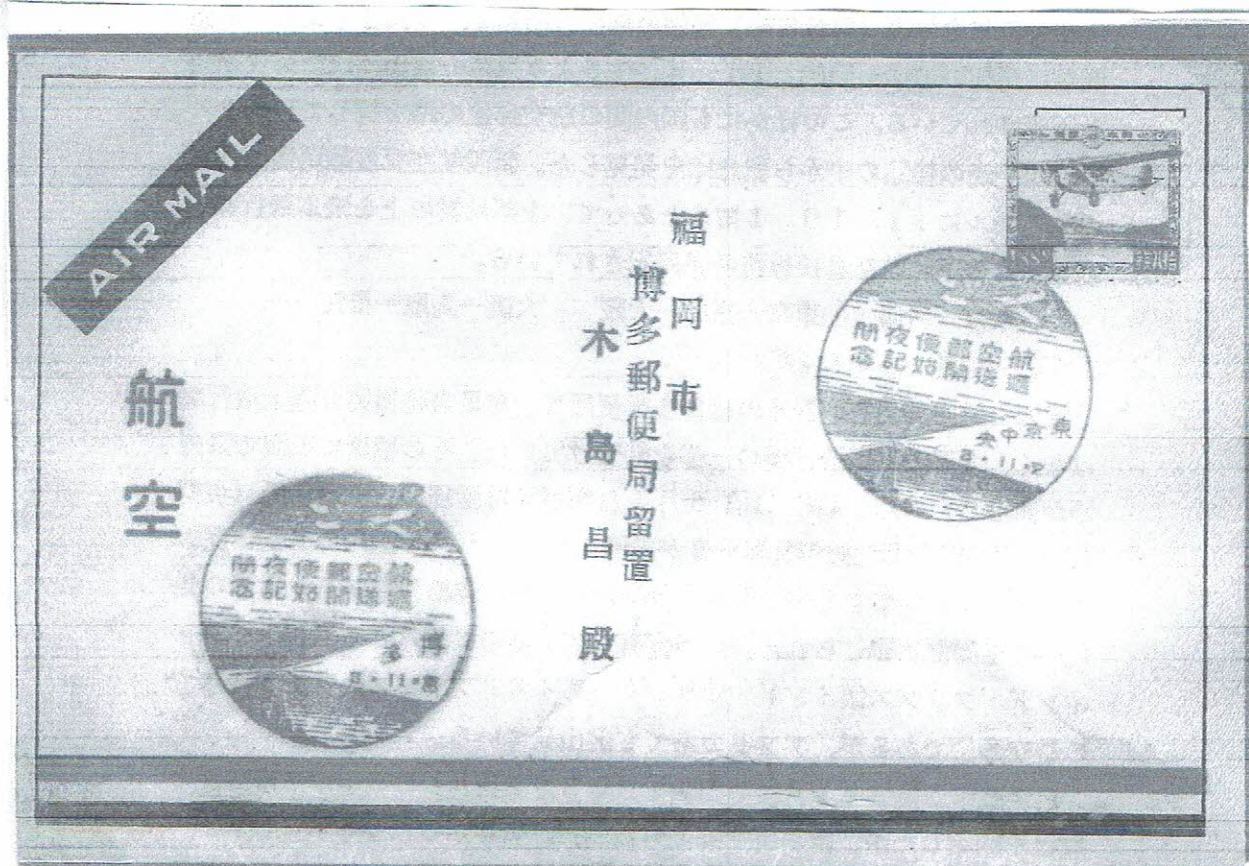
日本郵趣協会 小郡支部

第31巻 第8号 2021. 8. 1

## 航空郵便夜間遞送開始

速達郵便より航空郵便の配達が遅い現象の解消のため、昭和8年11月1日より夜間に郵便の通送を開始した。

この航空郵便は夜間に通送されたのか不詳だが、東京—博多の航空郵便。



記念印 東京中央 8・11・2

博多 8・11・3

## 九州の航空郵便 2

中嶋克巳

台湾試験飛行に入る1月前の昭和6年9月18日柳条溝の満鉄路線爆破事件は満州事変となり、昭和7年3月1日満州国が建国、11月3日には、東京―新京間に日満航空郵便連絡便が開設された。この初日大阪から奉天あての航空郵便を保有（別掲）しているが、国外あて航空郵便では最も古く大切に保管している。

国内間に、航空郵便が速達郵便より配達が遅いことがあり解消のために、昭和8年、11月1日より東京―大阪間に夜間飛行を開始したが、昭和10年になって姿を消した。東京―博多間 11, 2～11, 3は別載・

郵政百年史年表（郵政省編）郵便の部に、昭和4, 9, 21東京―新潟間航空郵便の運送を開始。11, 4, 15より東京―富山間航空郵便開始と記載されている。このほかにも国内間の航空郵便線路を探していたところ、切手商の雑品の中から記念印を発見した。新設航空郵便線路開設記念のタイトルに11, 10, 1博多とあって、上部は雲の上を飛ぶ飛行機を描き、その下に航空郵便線路名が列記されている。

東京―新潟　東京―富山―大阪　大阪―鳥取―松江

大阪―徳島―高知の4線路名

福岡で航空郵便を取扱うのは博多郵便局で、発足当時福岡に陸上飛行場はなく、太刀洗軍用飛行場の一部を借受けていた。その福岡に民間の飛行場が開港したのは、昭和11年6月1日場所は糟屋郡和白町雁ノ巣（現福岡市）で、博多郵便局飛行場分室が設置された。これまで国内の航空郵便線路の発展を書いてきたが、大連や台湾線路の先に連絡線路があり世界の各地へ航空郵便は届けられた。僕が保有しているのは日本から満州・中国・インド・フランス領インド・オランダ・スイス・フランス・アメリカあての航空郵便であるが、アフリカあても沢山見ている。

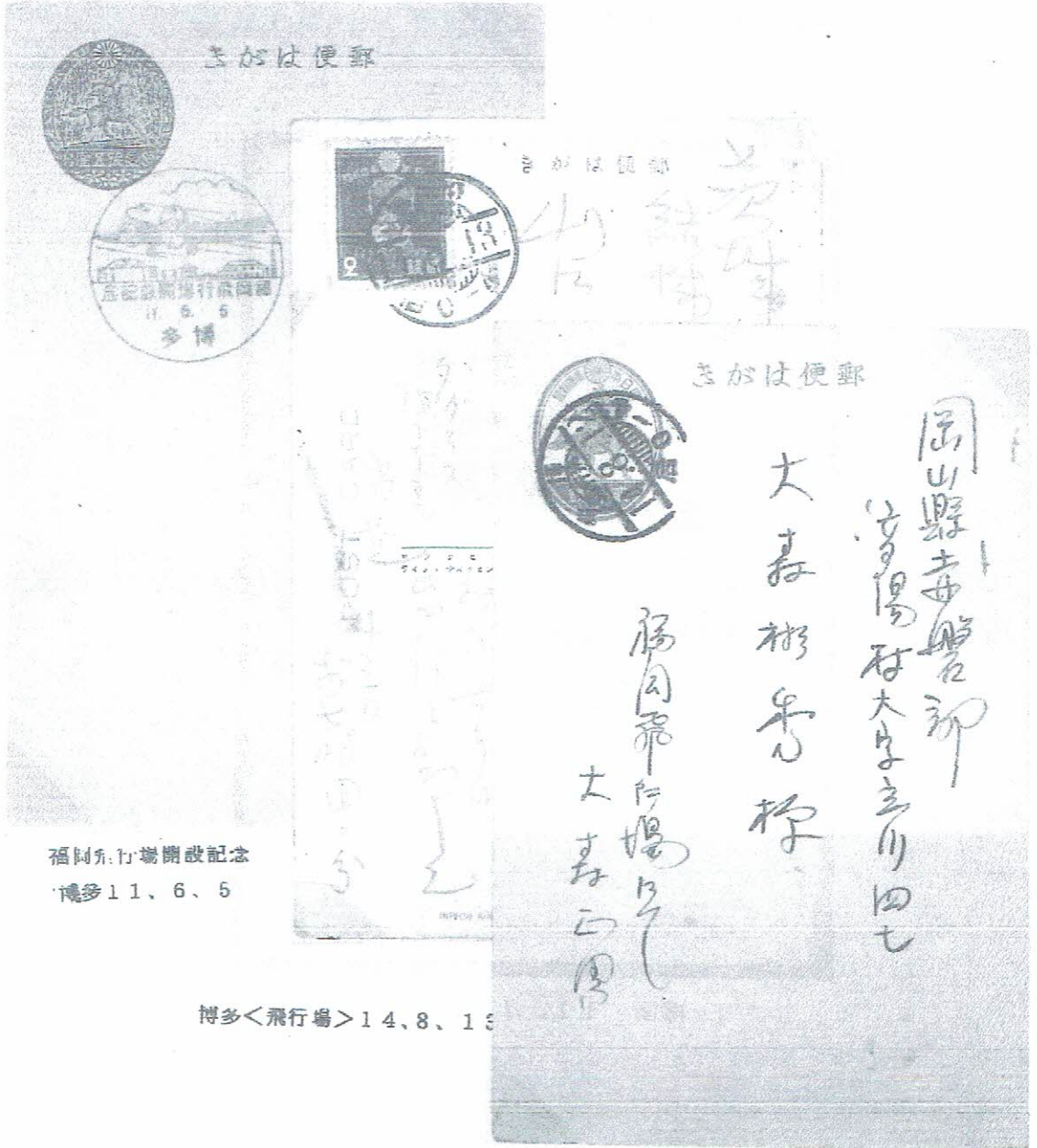
日中戦争が始まり1月後の昭和12年8月2日、この戦争の軍事郵便の取扱を開始したが、軍事航空郵便も扱った。戦地からは基本料は無料。

昭和17年7月特別軍事航空往復葉書を南方派遣兵士に配布した。戦地からは無料、内地から基本料金だけ、航空料は無料。

博多飛行場分室（雁ノ巣）

昭和11年6月1日、粕屋郡和白町雁ノ巣に、民間飛行場として福岡飛行場が開港した。それまでは、三井郡太刀洗町にあつた軍用飛行場の一部を使用していたが、福岡市よりは遠隔だし、近郊に民間専用の飛行場設置の要望より開港された。

開港の同日、博多郵便局の博多太刀洗分室は福岡飛行場へ移転し、博多飛行場分室となる。昭和20年終戦により業務を停止していたが、昭和21年3月3日に廃止されている。



福岡飛行場開設記念  
博多11、6、5

博多<飛行場>14、8、13

博多<飛行場>14、8、12

# 新 設 航 空 路 線

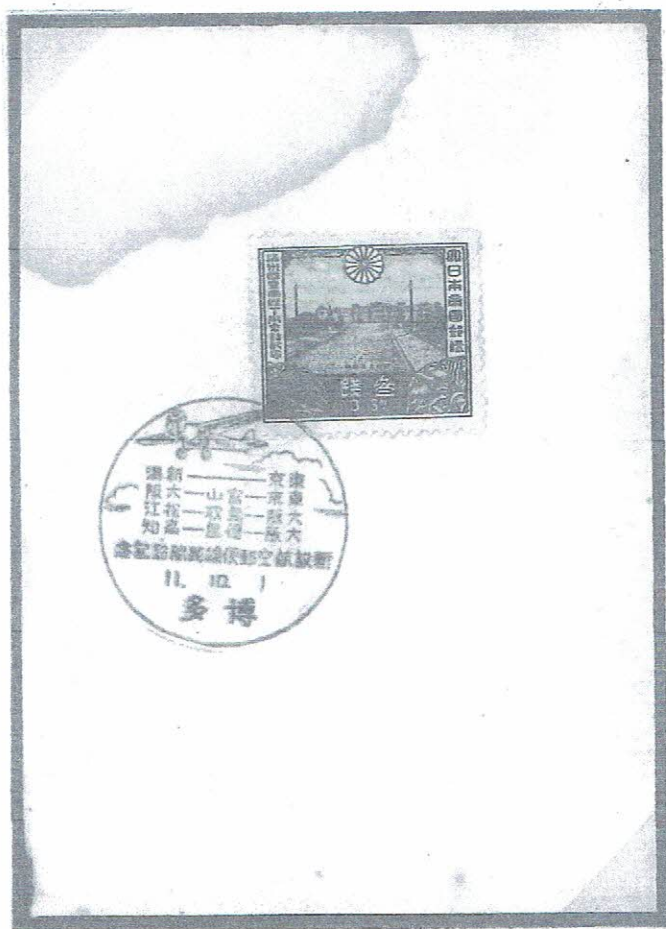
新設航空郵便線路開設記念

東京——新瀉

東京——富山——大阪

大阪——鳥取——松江

大阪——徳島——高知



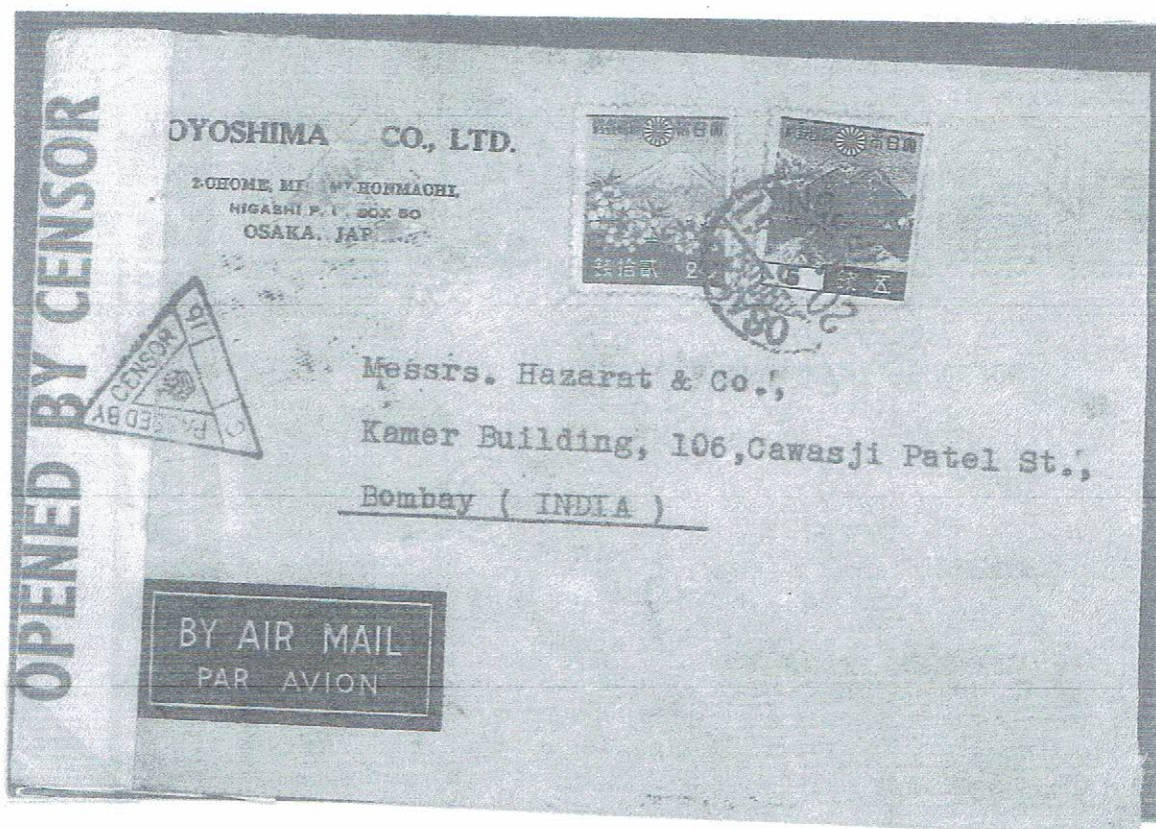
博多 11、10、1

5 銭 (大正池)

1-2

航空郵便

大阪から、イギリス領インド・ボンベイ宛の飛行郵便である。日本で検閲されていないが、到着したインドで検閲が行われている。

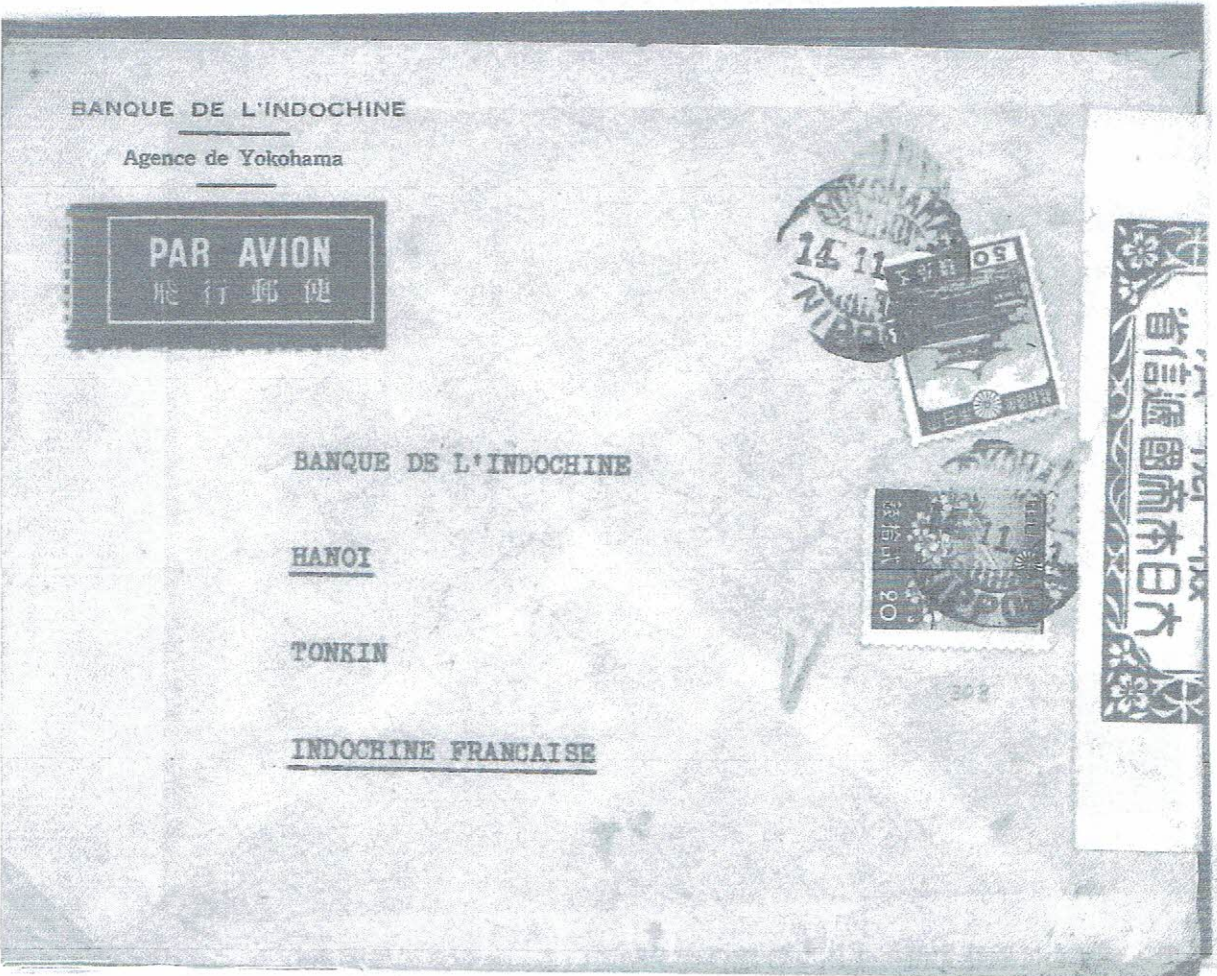


ボンベイあて航空郵便 1円75銭分切手貼ている インドの検閲あり

### 50 銭 (金閣寺)

太平洋戦争の開戦1カ月前に横浜から、フランス領インド支那ハノイ（現在のベトナム）への飛行郵便であるが、検閲が行われている。

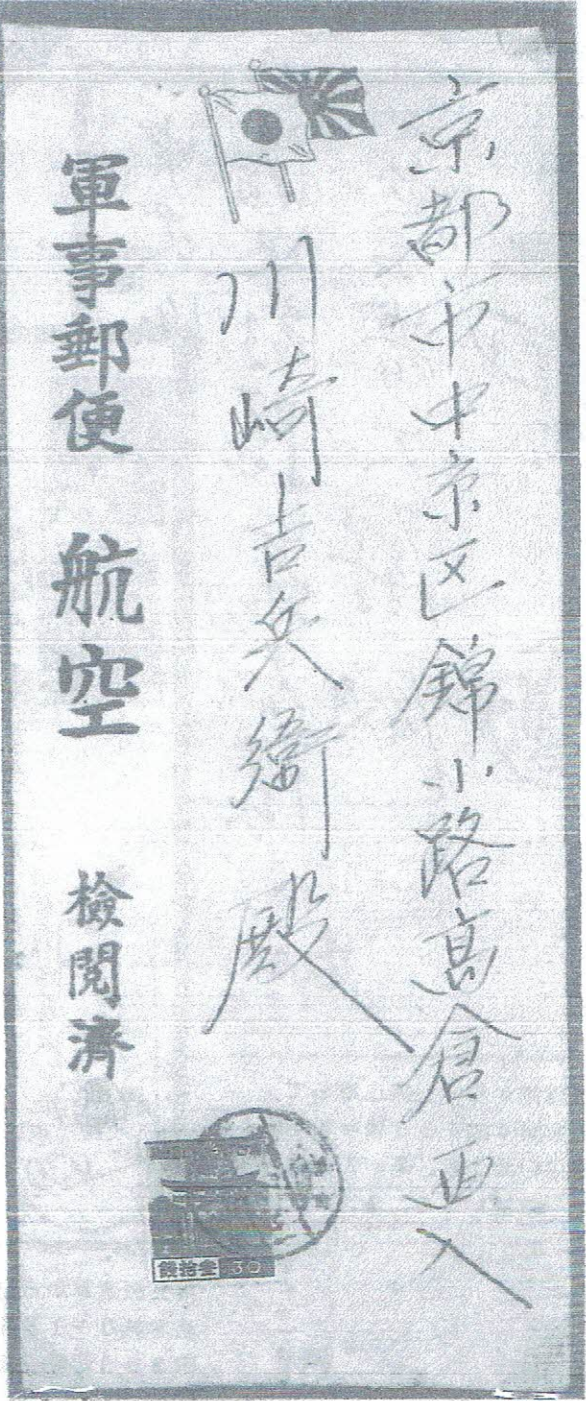
日本軍は、昭和15（40）年9月23日北部仏印へ進駐、翌年7月28日に南部仏印へ進駐し、戦争準備をととのえている。



フランス領インド支那あて航空郵便  
YOKOHAMA 14.11.41 NIPPON

航空郵便  
軍事航空郵便

日中戦争が始まって1月後の昭和12年8月2日、この戦争に関する軍事郵便が始まり、世界で最初の軍事航空郵便も取扱った。戦地からの私使便は基本は不要だが航空料は必要だった。公用便はいずれも無料。内地から戦地宛はいずれも有料。

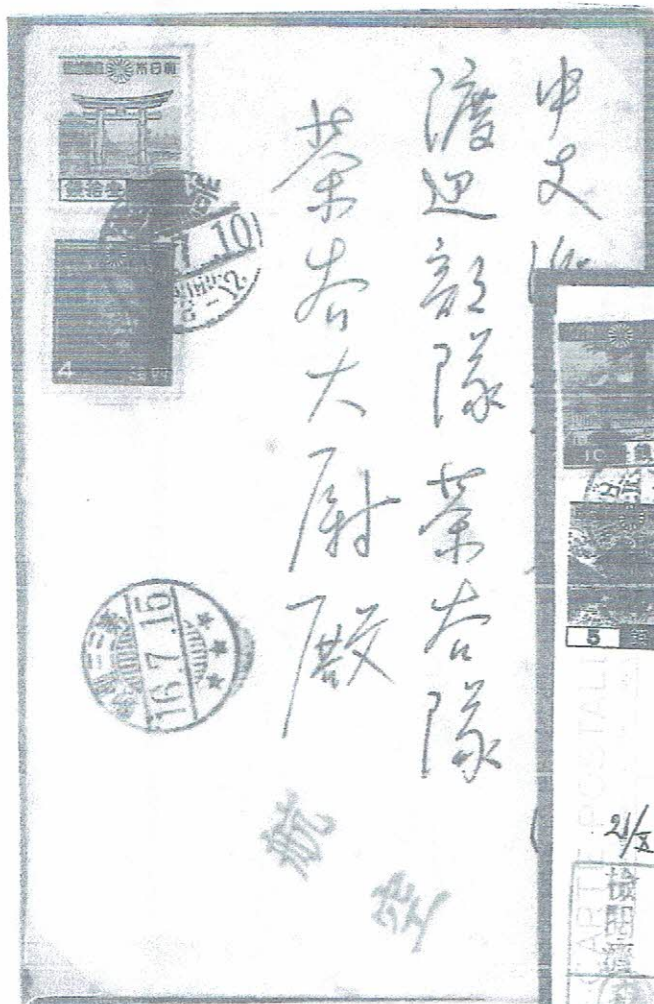


中支派遣部隊から京都市へ  
基本料0銭+30銭=30銭

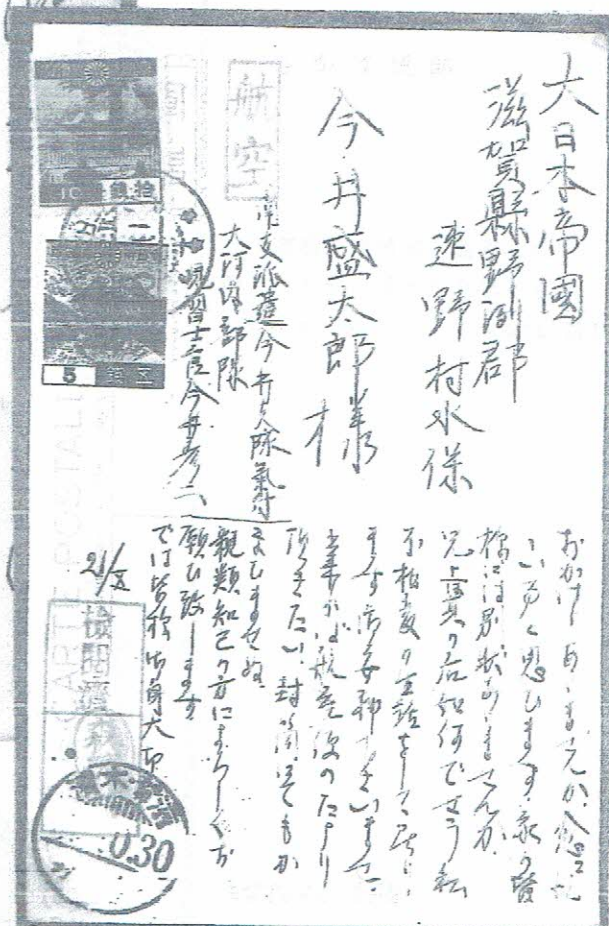
第60野戦(漢口)16、2、4消印

航空郵便  
軍事航空郵便

日中戦争が始まって1月後の昭和12年8月2日、この戦争に関する軍事郵便が始まり、世界で最初の軍事航空郵便も取扱かつた。戦地からの私使便は基本は不要だが航空料は必要だつた。公用便はいづれも無料。内地から戦地宛はいづれも有料。



岩国市から中支派遣軍あて  
基本料4銭+30銭=34銭  
岩国〇港16、7、10消印  
第33野戦(翠波)16、7、15着印



南支派遣軍から滋賀県宛  
基本料0+15銭=15銭  
第203野戦(海南島海口)16、10、23消印

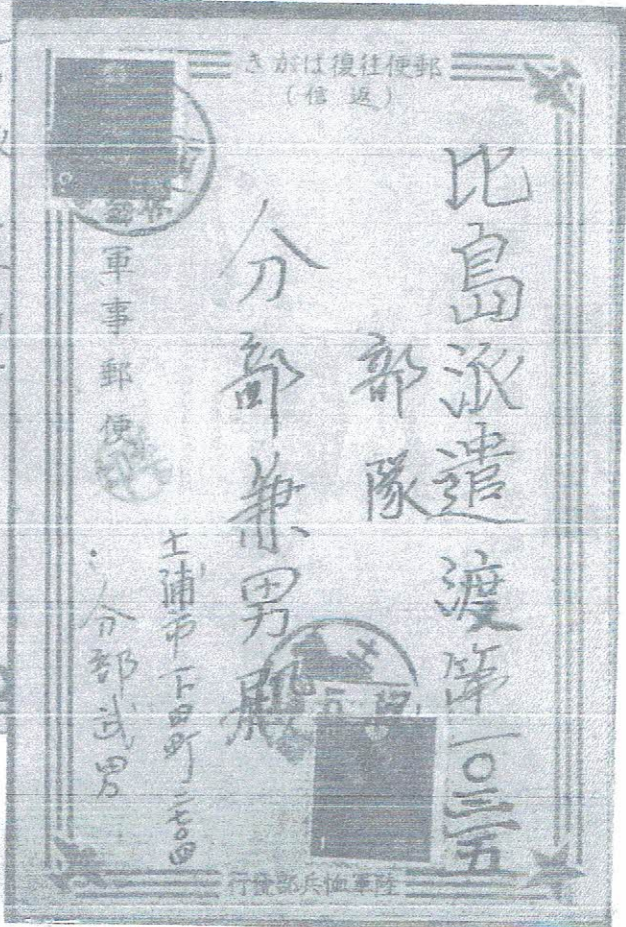
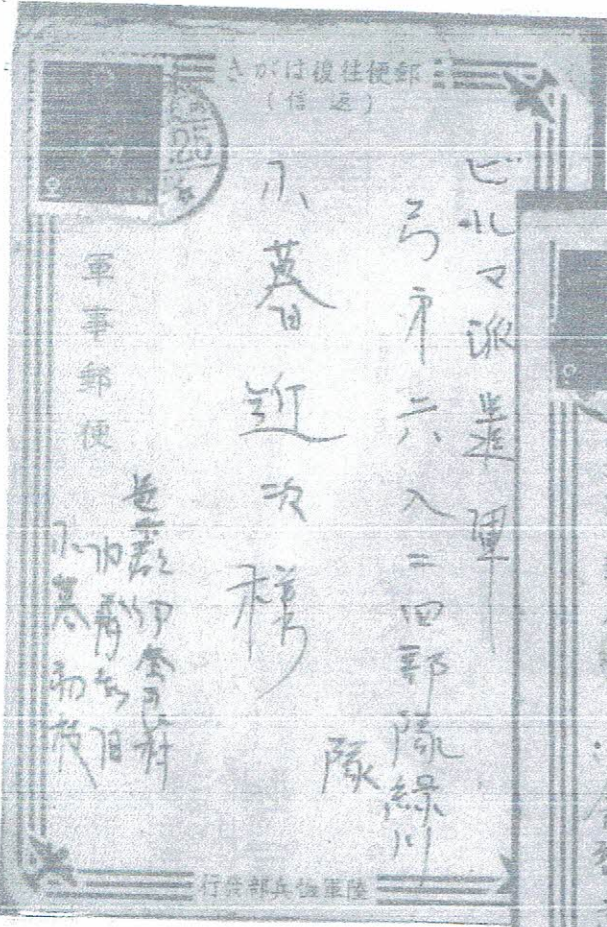


2 銭 (乃木) 切手

特別軍事航空葉書

昭和17年7月10日に陸軍省が発行。銘版は陸軍省発行および陸軍恤兵部発行と海軍省発行がある。

太平洋戦争の戦線が拡大した南方戦線からは無料の航空便で、内地からの返信には葉書代の切手を貼れば航空郵便として取り扱った。



土浦19、5、17茨城県 MA2